

有田焼に阿弥陀如来

三田市西野上の光円寺（野村豊紀住職）で、有田焼の陶彩画「阿弥陀如来」（縦1・2呎、横0・68呎）がお目見えした。陶彩画は、佐賀県武雄市の

西野上・光円寺で開眼供養



完成した阿弥陀如来と野村住職（三田市西野上で）

草場一寿さん（51）が陶板を焼いて仕上げる技法を確立。野村住職に制作を依頼された草場さんが、昨秋から計15回の焼きを入れ、1年で完成させた。開眼供養は13日に行われた。淡い紫や青、黄などと金箔のグラデーションが目を引きデザイン。後光に約3000本の放射状の線が描かれている。

草場さんは阿弥陀如来の表情について「誰もが癒やされ、慈愛に満ちたものにした」といい、同寺は近く陶彩画を安置する厨子を作り、準備が整えば、新たな本尊として一般公開するという。